

令和2年度 事業計画書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(令和2年度事業計画書)

| | |
|-----------------------------------|---|
| はじめに | 1 |
| 1. 学術・科学技術の振興 | 1 |
| 1.1 倉田奨励金 | 1 |
| 1.2 日立財団科学技術セミナー | 2 |
| 1.3 日立スカラシップ事業 | 2 |
| (1) 博士課程留学支援プログラム | |
| (2) リサーチサポートプログラム | |
| 1.4 日立財団アジアイノベーションアワード | 3 |
| 2. 人づくり | 5 |
| 2.1 理工系人財育成支援事業 | 5 |
| (1) 日立みらいイノベータープログラム(小学生向け) | 5 |
| (2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け) | 6 |
| 2.2 大好き いばらき作文コンクール | 6 |
| 2.3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業 | 6 |
| 3. 多文化共生社会の構築 | 6 |
| 3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム | 6 |

はじめに

当財団は、事業改革を行う中で、令和元年度から

1. 学術・科学技術の振興
2. 人づくり
3. 多文化共生社会の構築

の3つを重点分野と定め、持続可能な社会の構築や国民生活の向上、さらには国際社会に貢献する事業活動をおこなっている。

令和2年度は新たにSGDs時代において他に類を見ない「日立財団アジアイノベーションアワード」事業を立ち上げ、アジアにおける科学技術の振興に資する活動を推進してゆく。令和2年度の事業計画概要を以下に示す。

1. 学術・科学技術の振興

1.1 倉田奨励金

倉田奨励金の助成事業については、現在までに1,385件の研究テーマに総額約23億3000万円を贈呈し、研究活動の支援を行ってきた。

令和元年度には、5財団統合を機に導入した文理融合的な研究への支援をさらに発展させ、「高度科学技術社会の到来を見据え、通底する人文知のさらなる高度化を担う研究者支援」として人文・社会科学研究部門を新設、先駆的な助成事業として認知されている。

令和2年度の研究助成金の交付の内容は下記の通りとする。

1) 助成対象

① 自然科学・工学研究部門

社会課題解決に資する独創的・先駆的な自然科学・工学研究で対象を下記3分野とする。

- I. エネルギー・環境分野
- II. 都市・交通分野
- III. 健康・医療分野

② 人文・社会科学研究部門

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

2) 奨励金額

奨励金総額は、5,500万円とする。

3) 応募の条件

国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科、同研究科に係る学部、または文部科学省科学研究費補助金を申請することができる法人)に所属する研究者を対

象とする。ただし国籍は問わない。

4) 募集の案内

令和2年7月初旬に日立財団ホームページに募集案内を掲載する。

5) 応募締切り 令和2年9月中旬

6) 選考方法 選考委員会において、審査のうえ決定する。

7) 交付者決定 令和3年1月

8) 贈呈式 令和3年3月初旬

尚、一部選考委員の任期満了に伴い、下記選考委員にて選考を行う。

【選考委員長】 (敬称略/五十音順)

| | | |
|------|-------------|---------|
| 大西 隆 | 豊橋技術科学大学 学長 | 都市・交通分野 |
|------|-------------|---------|

【自然科学・工学研究部門 選考委員】

| | | |
|--------|---|--------------------|
| 小林 哲彦 | 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 理事 エネルギー・環境領域 領域長 | エネルギー・環境分野 (新任) |
| 佐久間 一郎 | 東京大学大学院 工学系研究科 教授 | 健康・医療分野 |
| 須田 義大 | 東京大学生産技術研究所 教授 | 都市・交通分野 |
| 長棟 輝行 | (一財)総合研究奨励会 コーディネーター 東京大学名誉教授 | 健康・医療分野 |
| 山田 真治 | (株)日立製作所 研究開発グループ 技師長 | エネルギー・環境分野 (新任) |

【人文・社会科学研究部門 選考委員】

| | |
|-------|---------------------|
| 神里 達博 | 千葉大学国際教養学部 教授 |
| 城山 英明 | 東京大学公共政策大学院 教授 |
| 鈴木 淳 | 東京大学大学院 人文社会系研究科 教授 |

1.2 日立財団科学技術セミナー

一般市民にセミナー形式で最先端の科学に触れる場を提供する。

5月頃にテーマと講演者を選定し、10～12月に開催予定。

1.3 日立スカラーシップ事業

(1) 博士課程留学支援プログラム

東南アジアの大学教員を日本の大学院博士課程に招聘するプログラム。平成29年度の招聘を以て募集を終了。現在日本に滞在中の奨学生に対し、奨学給付金・学費・学会参加支援費の支給等の支援を行っている。令和2年度は4名に対し支援を行う予定。本事業は令和2年度で終了予定。

(2) リサーチサポートプログラム

科学技術の振興を通じた社会課題解決を目的に、3分野(「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」)において、基礎的・応用的研究を行う東南アジアの研究者(大学教員)を日本の大学及び研究機関に招聘するプログラム。令和元年度の招聘を以て募集を終了。現在日本に滞在中の研究者に対し、研究支援金の支給等の支援を行っている。本事業は令和2年度で終了予定。

1. 4 日立財団アジアイノベーションアワード

近年のアジア諸国の経済発展、科学技術の研究水準の向上を踏まえ、大学の人財育成を中心とした日本への招聘型の支援を改め、これまで30年余の学術交流、ネットワークも生かし、アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対するアワード。令和2年度の内容は下記の通りとする。

1) 表彰対象

持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究及び研究開発において、画期的な成果(論文発表、学会発表、特許取得など)をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰する。

募集においては、SDGsにおける、17のゴール及び169のターゲットのうち、毎年2つのゴールと関連するいくつかのターゲットを選定し、これらに貢献すると考えられる研究及び研究開発のテーマ例を設定する。令和2年度は、令和元年度時点の各国のSDGs達成状況から、多くのアセアン諸国で課題が残る以下の2つのゴールのターゲットの研究に秀でた個人又はグループを表彰する。

ゴール2 「飢餓をゼロに」

- ターゲット 2. 2 適切な栄養摂取の実現
- 2. 3 農業生産性と農民の所得向上
- 2. 4 接続可能な農業生産方法

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

- ターゲット 3. 3 伝染病の根絶及び感染症への対処
- 3. 6 道路交通事故による死傷者の半減
- 3. 8 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成
- 3. 9 有害化学物質、大気、水質及び土壌の汚染対策

2) 表彰内容・金額

| | |
|--------------|-------------|
| 最優秀賞 (最大 2件) | 副賞 賞金 300万円 |
| 優秀賞 (最大10件) | 副賞 賞金 100万円 |

上記以外に、優秀賞に準ずるものとして、奨励賞を贈呈することも可能とする。奨励賞は、最大10件とし、1件あたりの賞金は50万円程度とする。

3) 応募の条件

アセアン10か国の中から、募集するSDGsのゴールやターゲット、研究及び研究開発のテーマ例に合わせて、対象大学及び研究機関を毎年選定する。応募者は、母国における対象大学または研究機関に在籍し、母国にて研究及び研究開発を行っている、教職員、研究者、または学生とし、所属学部または部門長以上の推薦書があることを条件とする。

令和2年度の対象国、対象大学及び研究機関の選定にあたり、アジアとの関係が深い学会、大学、研究機関に協力頂き、リストアップした上で、ワーキンググループにて最終選考し、下記とする。

(国:アルファベット順)

| | |
|--------|----------------|
| カンボジア | カンボジア工科大学 |
| | カンボジア国立衛生研究所 |
| | 王立農業大学 |
| | カンボジア農業研究開発所 |
| インドネシア | バンドン工科大学 |
| | ボゴール農業大学 |
| | インドネシア科学院 |
| ラオス | ラオス国立大学 |
| | ラオス保健科学大学 |
| ミャンマー | マンダレー大学 |
| | ヤンゴン大学 |
| | イエジン農業大学 |
| フィリピン | フィリピン大学ディリマン校 |
| | フィリピン大学ロスバニオス校 |
| | フィリピン大学マニラ校 |
| ベトナム | カントー大学 |
| | ハノイ工科大学 |
| | ベトナム科学技術アカデミー |

- 4) 募集案内 令和2年4月に日立財団ホームページに応募方法を掲載する。
 5) 応募締切り 令和2年6月
 6) 選考方法 令和2年7～8月 一次選考:書類選考
 令和2年9月 二次選考:面接(Skype等による遠隔面接)
 令和2年10月 最終選考:選考委員会
 7) 受賞者決定 令和2年10月 理事会承認(書面または磁氣的記録による)
 8) 表彰式 令和3年1月頃予定
 9) 選考委員 (敬称略/五十音順)

| | |
|--------------|--|
| Monte Cassim | 大学院大学至善館 学長 |
| 河野 泰之 | 京都大学 副学長 東南アジア地域研究研究所 教授 |
| 佐藤 百合 | 独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所 上席主任研究員 |
| 下山 勲 | 富山県立大学 学長 |
| 前田 章 | 国立研究開発法人 科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部 運営統括 |
| 安井 真紀 | シニア・ファイナンシャル・オフィサー International Finance Corporation (国際金融公社) |

2. 人づくり

2.1 理工系人財育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧され、日本の次世代を担う理工系人財の戦略的育成が課題となっている。そうした背景を受け、平成28年度より、日立財団の重点分野である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、以下の活動を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」(小学生向け)

「イノベーション創出」できる次世代の理工系人財を育てることを目的に独自に開発した、プロジェクト型の探求学習プログラム。日立グループの社員を企業講師として派遣する。令和2年度は、6校(東京都小金井市、千葉県柏市、茨城県日立市、茨城県かすみがうら市、埼玉県熊谷市、埼玉県戸田市の小学校)向けにプログラムを実施予定。また、プログラムが目指す資質・能力の設定、思考プロセスの妥当性及び有効性の客観的な検証を実施するとともに、教育フォーラムを開催予定。

(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)

理工系女子への関心や理系進路へのモチベーションを喚起させる啓発活動を外

部有識者、女性研究者及び女性技術者を活用して行い、理工系女子育成に貢献する。

令和2年度は、昨年度同様に理工系女性ロールモデルをゲストに迎えた対談を実施し、財団ホームページの中の理工系女子応援サイト「わたしのあした」の「パイオニアトーク」のコーナーに掲載する。

2. 2 大好き いばらき作文コンクール

茨城県内の小・中学生を対象に、個性と創造性に富む心豊かな人づくりを目的に平成29年度から旧小平記念作文事業を引き継ぐ形で、チャレンジいばらき県民運動と共催にて実施している。令和2年度は事業見直しにより休止する。

2. 3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

スポーツを通して少年少女の健全な心身の育成と、友情、連帯感を培い、犯罪や非行のない明るい社会を作ることとして、昭和53年度から日立市体育協会と共催で実施している。競技種目は軟式野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目。令和2年度は事業見直しにより休止する。

3. 多文化共生社会の構築

3. 1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム

国内外のみならずグローバルな社会課題にもなっているダイバーシティとインクルージョンに照準を合わせ、包括的な中期テーマを「多文化共生社会の構築」と設定している。

令和元年度から本事業の主軸を広く一般市民に向けて意識改革を促す啓発活動と定め、テーマ関連のシンポジウムを企画、開催している。

令和2年度は、国籍、障がい有無、性的指向など、属性ごとにミニシンポジウムを順次開催し、最終回はミニシンポジウムの総括ということで、モデレーターと日立財団理事長対談を行い、社会にむけて提言する。

以上